

地域のおじさんおばさんパワーで子育て支援

～ひとり親家庭学習支援事業について～

豊前市 豊前市教育委員会 横武公民館【公立公民館】 館長 林川 英昭

1. 事業概要

○「ひとり親家庭のための学習支援ボランティア事業

豊前市横武公民館 学習塾

- ・対象者：豊前市内ひとり親家庭の小学生、中学生
- ・実施時期：月3～4回、木曜日18：30～20：30
- ・場所：横武公民館



- 本事業は実施主体の福岡県が、社会福祉法人福岡県母子寡婦福祉連合会に事業委託し、県内全域（福岡市・北九州市・久留米市を除く）を対象としています。事業委託先のコーディネーターが、本事業への取り組みを希望する地区に支援事務を行い、県内16カ所（開設当初）に設置している学習塾のひとつが横武公民館学習塾です。

2. 事業の目的

横武公民館学習塾では、県事業の目的である「ひとり親家庭の児童の学習を支援したり、児童から気軽に進学相談等を受けたりすることで学力向上を図り、将来の安定的な就業につなげること」を、横武公民館の重点努力目標である「学校・家庭・地域社会との連携」や「家庭教育及び地域住民のふれあい活動の支援」により実現すべく取り組んでいます。そのため、講師は地域の方にご協力いただき、日常的な学習支援だけでなく、子ども達の成長を祝い（卒業お祝い会）、ともに過ごす場の設定（クリスマス会、キャンプ）も行い、家庭を支援するアットホームな場の創造に努めています。

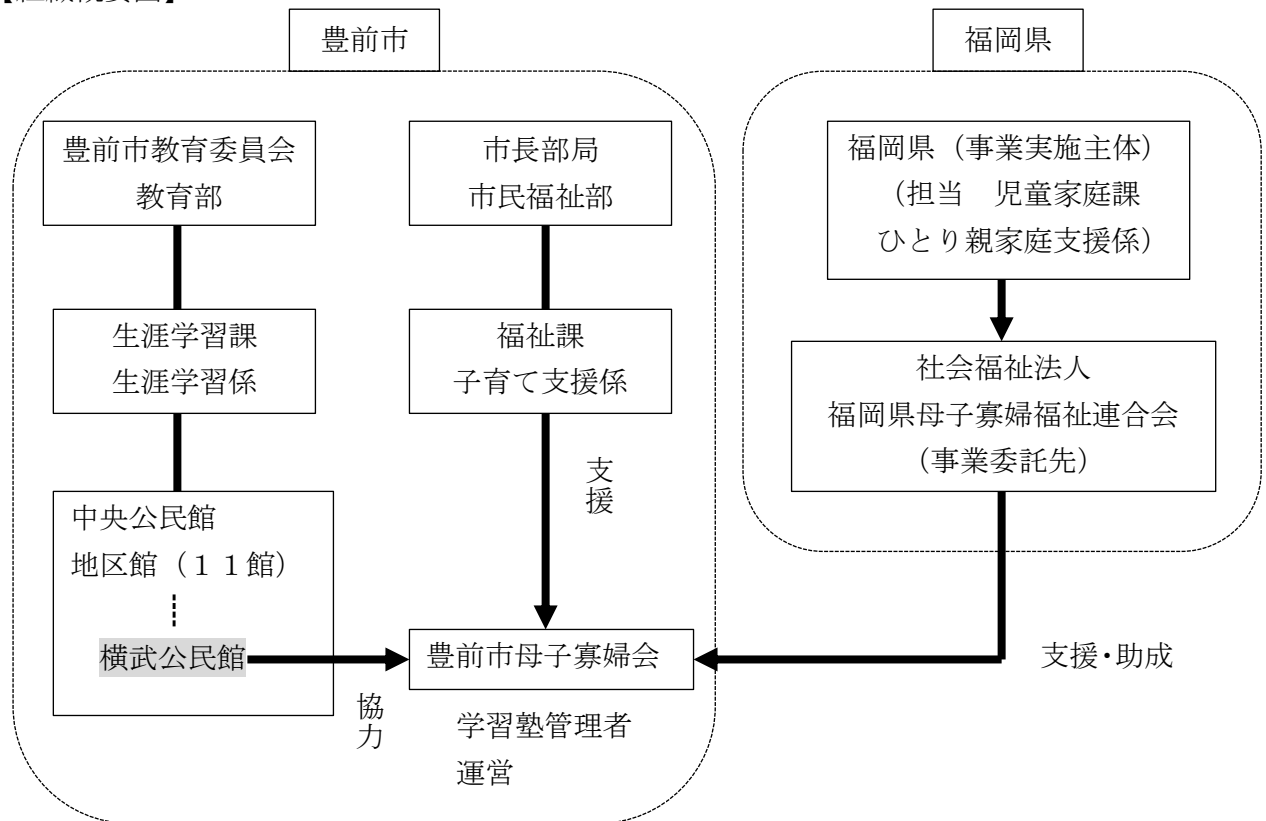
3. 協力機関

社会福祉法人福岡県母子寡婦福祉連合会が事業の運営に係る協力機関となります。また、豊前市母子寡婦福祉会が管理者として運営にあたっています。さらに、経験豊かな市内在住の退職教諭等学識経験者が講師として参加しています。学習塾の講師代表は、個人的立場ではありますが、主任児童委員もしている横武公民館長がつとめています。

4. 予算について

本事業は、社会福祉法人福岡県母子寡婦福祉連合会から、年間約16万円の補助金を受け、実施しています。補助金は講師のガソリン代、会場冷暖房料、学習教材購入等に活用しており、そのほかは、管理者（世話人）や参加家庭の負担（定例の学習会以外の催し時500円程度）で運営しています。

【組織概要図】



5. 事業の内容

(1) 定例の学習会の様子

ふだんの学習会は、基本的に児童・生徒が持ち込んだ教材・宿題等を中心に学習を行い、先生がアドバイスをしたり勉強の仕方やコツなどを教えたりしています。先生は当初は3～4名、現在は生徒数が減り2名体制で行っています。中学生は受験が近づいた2学期ごろからは別室で受験用のプリントなどに取り組みせ、対策を行います。

学習時間は基本的に2時間で、途中10分程度の休憩をとります。この時間も貴重で、母子寡婦会の方が差し入れるお茶やお菓子をいただき、雑談に華を咲かせながら子どもたちのふだんの生活を聞き出すこともあります。

(2) クリスマス会、キャンプ等おたのしみ会

年末にはお楽しみ会の一つとしてクリスマス会を行っています。子ども達は前半の1時間は勉強に当て、残りの1時間で子ども、先生、母子寡婦会、保護者を交えて食事をします。食事はおもに母子寡婦会の方々の手作り料理が中心です。この学習支援の特色はただ勉強を教えるだけではなく、父親母親代わりとして子ども達と楽しい時間を過ごす目的もあります。その目的からいえばこういうお楽しみ会は貴重な時間です。また、年により日帰りキャンプ、社会福祉施設提供食材（きのこ）による食事会や交流会も行いました。公的機関だけではなく、周辺の様々な団体の協力や援助で成り立っているのも特徴です。

(3) 卒業祝い

中学校を卒業する生徒がいる年度を中心に3



月下旬に卒業祝いをを行います。小学校卒業児童もいるのですが、この塾の場合は中学生まで受講できるため、実質の卒業は中学校3年生になります。この時、卒業生から先生方に感謝の気持ちを表すセレモニーなどもあり、なお一層関係が深まります。

6. 事業実施までのスケジュール（単年度）

平成25年度	福岡県ひとり親家庭のための学習支援ボランティア事業開始
平成25年度おわり	豊前市母子寡婦会に事業実施協力の打診
平成26年度はじめ	豊前市母子寡婦会より横武公民館に事業実施の打診
平成26年度夏	横武公民館で事業実施を決定
平成26年度11月	横武公民館で事業開始（県内14番目）（発足時生徒数12名）

7. 事業の成果

学力的には厳しい子ども達が多いと感じます。そのため学習への基本姿勢から学ぶことが多いのですが、横武では講師のほとんどが学校教員OBのため、その点はしっかり学ばせることが出来ました。ほかの塾、特に都市部では学生ボランティアが多いため、横武は他の地域よりこの点を地域の特性として活かしていると思います。

また、もう一つの目的であるひとり親家庭における父親代わり母親代わりの役割を補完するという点でも子ども達が教師たちに大変なじんでおり、学校では見せることがないよい表情を見せる子どももいるようです。京築地区ではこの事業は初めてのことであり、広がることへの期待も含めてこの事業を始めたこと自体が成果ではないかと思えます。

8. 今後の課題

参加する子ども達が減少していますが、本事業については、参加人数に関わらず継続を目指します。そこで、課題となるのは二点です。

豊前市は市内に10小学校・4中学校がある広い面積を持つ市ですが、本事業の学習塾は横武公民館にしかありません。参加は徒歩・自転車、もしくは親の送迎が条件となっており、その点に対応できない家庭があるため、参加を検討できるように複数の会場を設けること、講師や管理者として活動に協力できる方々を確保することといった条件整備が必要です。

また、本事業の取組を、対象となるひとり親家庭や講師をしていただける方に広く周知するための方策を工夫することが必要です。この発表がその一助となることを願います。

様々な家庭の姿がある現在、公民館のように地域の人々の生活・活動拠点となる施設において、何らかのきっかけをもって、様々な人々が連携しながら家庭教育・家庭教育支援に取り組めることを、これからも検討していくことが必要であると思えます。

問合せ先

〒828-8501 豊前市大字吉木 955 番地
豊前市教育委員会教育部 生涯学習課 生涯学習係
TEL:0979-82-1111（代表）